揖斐郡教育研修センター通信　第２０号 ＜令和３年度ふれあい作品展特集号＞

ふれあい作品展は例年は３町の会場（はなもも、大野町民センター、池田中央公民館）を順番に回り、集合型の展示会を行ってきましたが、令和２年度はコロナウィルス感染症のため中止となりました。

本年度も当初は大野町民センターでの開催を予定していましたが、コロナウィルス感染症の蔓延のため、集合型の開催は難しく状況でした。そのため、下記のふれあい作品展のねらいを大切にしながら、各学校ごとに「ふれあい作品展」を実施しました。

「ふれあい作品展」の目的

- 特別支援学校や特別支援学級（知的障がい、自閉症・情緒障がい、難聴、肢体不自由）で学ぶ児童生徒の作品が作品づくりにじっくりと取り組むことで自信や制作能力、創造力を高めるとともに、作品を多くの人に見てもらうことで充実感や達成感をもつことができる。
- 自校の児童生徒や保護者、職員に見てもらうことで、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、共生やユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育についての理解を深める。

令和３年度　ふれあい作品展のテーマ

「夢をもって、共に明るく拓いていこう！」

- **自分の思いを込めた作品づくり・仲間と共につくる作品づくり・創る喜びが実感できる作品づくりに取り組もう。**
- **自分の頑張りや自分たちの学級のすばらしさを発信して、多くの人に知ってもらおう。**

こうした願いのもと行われた「令和３年度ふれあい作品展」では、特別支援学級（特別支援学校）の児童生徒が時間をかけて作品作りに取り組み、それを見てもらい、声をかけてもらったり、認めてもらうことで自信や自己肯定感を高めることができました。

（1）各学校での「令和３年度ふれあい作品展」の取組

揖斐小	共同作品２点と、一人一人が図工の授業で作った作品を１点ずつ、校内のワークスペースに展示しました。作品は、紹介動画を撮り、各学級、教室で見てもらいました。全校の児童、教師に見てもらい、児童のがんばりをアピールできてよかったです。
大和小	①　野菜看板②ポニー体験のお礼状③書写作品④共同作品等を展示。子ども達が開催の放送をして進めました。“全て手作りで気持ちがこもっていていい。素敵なふれあい作品展をありがとう”等，心温まる感想が寄せられました。
清水小	Teams を使って特別支援学級の保護者に作品展の全体と作品を写真で配信しました。全校児童には学級ごとに見てもらい、よいこと見つけの紙を書いてもらいました。作品や頑張った姿を認められ児童は嬉しそうでした。作品を見た保護者から「虎の作品の上に赤ちゃんのベッドを作ったのはさみしそうだったからと教えてくれて、考えていることが分かった」と家族の会話が増えたという感想をいただきました。
小島小	毎月「みのり新聞」を発行して生活単元学習の様子や成果物などを掲示しました。また、節分やひな祭りなどの季節の行事に関わる作品作りに取り組み、廊下の壁面に掲示した。その結果、多くの児童が足を止めて新聞や作品を見る様子が見られ、作品を通して支援学級の学習や児童の頑張りなどを周知することができました。
谷汲小	グルーガンで、ホットボンドを垂らしてランプシェードを作りました。子どもたちは、笑顔で楽しんで作成することができました。校内で展示したときは、先生や他のクラスの子から、「すごいキレイだね！」と声をかけてもらい喜んでいました。
大野小	１階廊下に１２月、１月に取り組んだ図工の作品を展示しました。 空き箱の組み合わせ、自然の木の組み合わせ、紙版画、紙粘土の作品、みんなが好きなことに一生懸命取り組んだことが伝わってきました。
北小	多くの先生や子どもたちから、価値付けの言葉があり、特別支援級の子どもたちも嬉しそうにしていた。また、授業参観と同じタイミングで展示をしたため、保護者の方にも活動の様子が伝わりました。

西小	特別支援学級（かがやき学級）の教室の廊下側の壁面にて、児童の作品を展示しました。 ・交流学級の図工の授業で制作した作品 ・国語科の授業で作成した紙芝居（２年物語教材「スイミー」） 廊下で立ち止まって、作品を見たり、５年生の工作について、「どうやって作ったの？」と尋ねる児童がいたりして、かがやき学級児童と他の学級の児童との交流が生まれた。また、教員から、「上手だね。」と励ましをもらうこともできました。
中小	特別支援学級の児童の手で会場に掲示するポスターやメッセージを作成しました。事前に特別支援学級児童の氏名を書いた「作品を見ての感想用紙」を全校児童に配付し、学級毎に担任の引率のもと、全校児童に作品を見てもらい、感想用紙をもとに交流を深めることができた。学年通信等で保護者に紹介しました。
南小	今回は交流学級の仲間と学習している図工で制作した作品を展示しました。作品への願いを形にするために、細かなところまでこだわって制作した作品を見て、仲間から感想を伝えてもらい、とても励みになりました。
東小	２日間に限定して作品展を行いました。交流学級や他学年の児童や全校の先生方に作品を見ていただき、作品のよさをメッセージカードに書いてもらうことで、自己肯定感を高めることができました。
温知小	書き初めと版画の制作をしました。書き初めでは、どの児童も「丁寧に仕上げよう」という願いをもち、集中して書くことができました。児童玄関前に掲示し、作品のよさやがんばりを用紙に記入してもらいました。たくさんのメッセージが届き、喜んでいました。
八幡小	図工で製作した絵画や版画を職員室前のワークスペースに展示し、学級毎に時間を決めて、みんなに観てもらった。交流学級に自分の作品紹介などのメッセージを入れたポスターを持ってお知らせしました。全校で、作品の良いところを見つけて放送したりカードを渡したりしました。
池田小	交流学級の図工の時間や生活単元学習の中で，じっくり時間をかけて作品作りを行い，すてきな作品がたくさん出来ました。２日間行いましたが，たくさんの人が見に来てくれました。「丁寧に色がぬってあるね。」「こんな作品を作ってみたい。」等，温かいメッセージをたくさんもらって大きな自信につながったと思います。
養基小	子どもたちは，ポスターをもって事前に交流学級や学年へお知らせに行きました。１月１９日から三日間，算数教室で展示を行いました。学級ごとに時間を設けて見てもらうことができました。交流学級の友達や先生方に，作品について一生懸命説明していました。多くの人から「すごいね。」と声をかけてもらい，大満足の様子でした。
揖斐川中	ふれあい作品展のポスターのデザインを全員で考えて、楽しみながら丁寧に制作をすることができました。発想豊かな作品を全校の仲間や教職員に鑑賞してもらい、表現の工夫を誉めて頂くことで次への意欲に繋げることができました。
北和中	絵を描くことが得意な生徒が、素材を自ら準備し、絵手紙の技法を活かして、心温まる作品に仕上げました。作品展は開催されなかったが、今後、保護者への感謝の気持ちを作品に込めてプレゼントする予定です。
谷汲中	１年間の学習の成果を掲示物にまとめて発表しました。国語、社会、理科、英語、生活単元、美術の作品をパネルに展示しました。昼休みを中心に来場者に説明をしまた。谷中フェスティバルでも、コーナーを設けて、発表しました。
大野中	版画では，どうやって彫れば動物の「もふもふ」が表現できるか，お面では、立体的に見えるにはどうすればよいか，など工夫が見られました。当日は，「どの作品も丁寧に作ってあって感動しました。」というお言葉をいただきました。
揖東中	揖東中では、教室前廊下に「ビーズ作品」を展示しました。各自が 10～13 作品にタイトルを付けて、きれいに配置しました。多くの仲間が立ち止まって、「これすごいね。」など、感想を言い合う姿が見られ、自分たちの活動を知ってもらう貴重なチャンスとなりました。
池田中	「自分の好きなもの」をテーマに、動物や花のスケッチをした。完成作品を教室に展示し、先生方や他の生徒達に公開した。試行錯誤を繰り返しながらの制作であったが、たくさんのお褒めの言葉をいただき、生徒が達成感を得ることに繋がりました。
揖斐特支	学習発表会週間に合わせて、全校生徒の作品を掲示してふれあい作品展を開催しました。絵画やコラージュ作品、大きな共同作品など、それぞれの個性が光る、色とりどりの作品が廊下を彩り、保護者の皆様にも楽しんで鑑賞していただくことができました。

（２）「ふれあい作品展」の担当者の先生よりいただいたご意見（成果と課題）

①本年度のふれあい作品展のよかった点や成果

校内ふれあい作品展にすることで、見てもらう方（支援学級の児童）は、身近な人に感想を言ってもらう、自分の作品を見てもらえたという満足感が得られたと思います。

- コロナ渦の中、学校内で作品展ができたことは「特別支援学級の活動を見てもらう」という点では、非常に良かったと思います。
- 本校の児童は、図画工作の授業を、交流学級で受け、同じ作品を制作している。交流学級において、その中で展示もしている。本年度初めて、自校の音楽室をふれあい作品展の会場として、２月２日～２月４日の３

日間、開催しました。新型コロナウイルス感染症対策として、密を避け、学級ごとに時間帯を振り分けて、担任引率のもとで、全校児童に作品を見てもらうようにしました。事前に特別支援学級の児童名を入れた作品を見ての感想用紙を配付し、全校児童から個別に感想をもらうことができました。特別支援学級の児童は、大変喜び、全校の児童は、特別支援学級の児童への理解を深めるよい機会となりました。

- 例年の展示方法では、なかなか自校の児童の目には触れないことが多いが、今年度は、自校の児童に観てもらうことができて良かったです。
- コロナ禍で、小中の同一会場での展示ができなかったが、少なくとも校内で展示し、自分たちの活動の一部を全校に発信できたことはよかったです。
- 当校では一人一点全員の作品を展示し、学習発表会週間と合わせて開催したので、保護者や全校の児童生徒がお互いの作品を鑑賞することができました。保護者の方々には当校の教育活動についてより理解を深めていただけたのではと感じています。
- 感染状況が次第に悪くなり、換気や人数制限など、様々な制約がでてきてしまい、校内展示が遅れました。ただ、例年のはなももでの展覧会と比べると、学校内の友達や先生方からの感想のお言葉をいただきやすく、生徒も大変うれしそうにしていました。

② 本年度のふれあい作品での課題

- 作品展のための作品を作るのではなく、実態に応じた作品を作ることが必要だと思いました。
- コロナ禍での開催ということで仕方がない部分もありますが、各校で開催することには負担が大きいように感じました。本校の場合だと、展示時間には担当教員がその教室に待機する方法をとりました。また、作品数も限られており、少し寂しい印象を受けました。
- 展示スペースの関係で，一人平面一点・立体一点の出品規定通りにすると，すかすかで，寂しいものになってしまうため，複数の作品を展示した。
- たくさんの方々に当校の児童生徒作品をみていただくことができずに残念に思いました。

（3）令和４年度のふれあい作品展の取組について

こうした令和３年度の取組をうけて実施した各校の担当の先生方の意見をもとに、今後令和４年度のふれあい作品展の具体的な取り組み方について考えていきますが、アンケートの記載内容より次の点を大切にしたいと考えております。

令和４年度の「ふれあい作品展」の「１０のキー・ワード」

① 自分の作品を見てもらえたという満足感や多くの人や身近な人から感想や承認を得られるようにする。

② 特別支援学級や特別支援学級への理解が深まるようにする。

③ 他校の作品を気軽に参観、特別支援学級の児童生徒同士の交流を図る。

④ 他校の児童の作品を観て学ぶ機会とする。

⑤ 特別支援学級の児童生徒と関わったり、作品を見て刺激を受けたりできる機会とする。

⑥ ふれあい作品展だからという期間にとらわれず、校内に紹介できるよう各校で工夫する

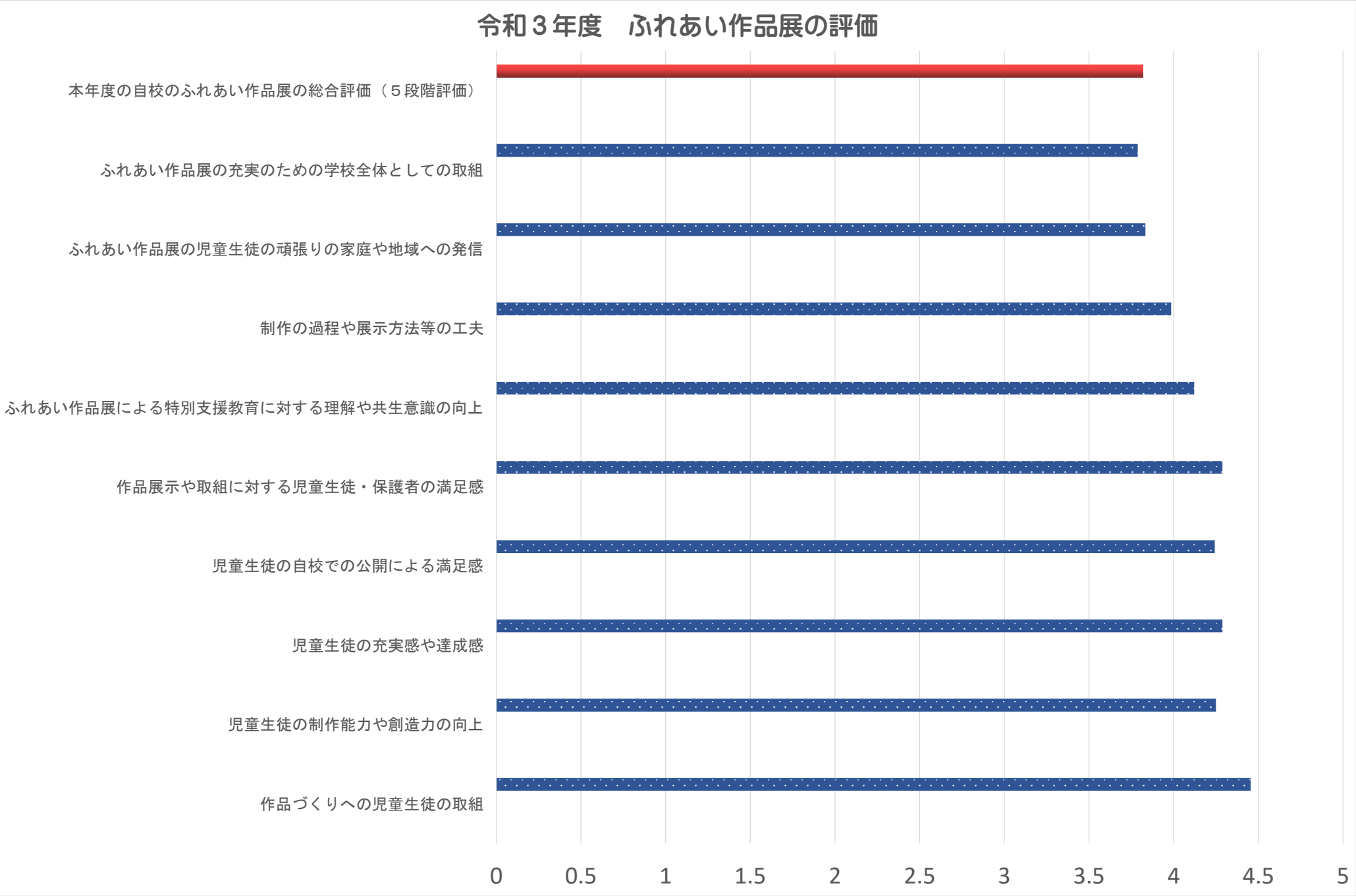
⑦ 作品展のための作品を作るのではなく、実態に応じた作品を作る

⑧ 展示数や展示方法の工夫、搬入・搬出・展示のスリム化、教員の負担軽減を図る。

⑨ 自校での開催のよさと他校の児童生徒の作品を見ることができるよさを組み合わせる。他校の児童生徒の作品を写真で撮影しＷｅｂ上で展示する「ふれあい作品展」についても考える。

⑩ 新型コロナウイルス感染症に対する対策を配慮しながら最も成果の上がる形で実施する。

以上の点を大切にした提案を郡教育研修センターで作成し、郡小中校長会、センター運営委員会、ふれあい作品展準備会で、検討して各学校へ下ろしていきますのでよろしくお願い致します。


令和３年度　ふれあい作品展の評価
本年度の自校のふれあい作品展の総合評価（５段階評価）
ふれあい作品展の充実のための学校全体としての取組
ふれあい作品展の児童生徒の頑張りの家庭や地域への発信
制作の過程や展示方法等の工夫
ふれあい作品展による特別支援教育に対する理解や共生意識の向上
作品展示や取組に対する児童生徒・保護者の満足感
児童生徒の自校での公開による満足感
児童生徒の充実感や達成感
児童生徒の制作能力や創造力の向上
作品づくりへの児童生徒の取組
0
0.5
1
1.5
2
2.5
3
3.5
4
4.5
5